

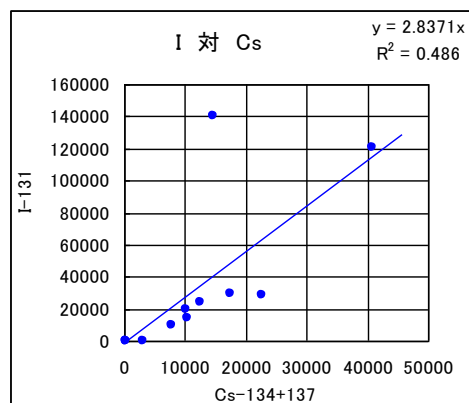
## 原発事故で放出された放射性ヨウ素

### 原発事故後の経過

放射性の定時降下物のデータが公開されている<sup>1) 2)</sup>。定時降下物は各自治体が降水採取装置を用いて採取し、ゲルマニウム半導体核種分析装置を用いて核種分析調査が行われている。その値が毎月文部科学省に報告されている。このデータを用いて東北・関東における月間降下物の平成 23 年 3/19～6/30 の合計値を求めた。下表の数値の単位は、MBq/km<sup>2</sup> (Bq/m<sup>2</sup>) である。

都道府県(採取地)	Cs-134+137	I-131
青森(青森市)	138.267	21.34
岩手(盛岡市)	2992.1	280
秋田(秋田市)	348.48	125.1
山形(山形市)	22570	29049
茨城(ひたちなか市)	40801	120705
栃木(宇都宮市)	14600	140507.5
群馬(前橋市)	10362	14071.1
埼玉(さいたま市)	12515	24122.3
千葉(市原市)	10141	20046.3
東京(新宿区)	17354	29053
神奈川(茅ヶ崎市)	7792	10052

数値は採取地の値であり、県全体の汚染の指標ではないが、一つの参考値となる。福島ではデータは取っていたようだが、震災の影響で分析が7月となったというように原子力規制庁の担当者は説明されている。したがって、半減期の短い放射性ヨウ素のデータがない。また、宮城では震災後はデータが取れていないということであり、データが取れるようになってからは独自のデータ管理・公表がなされ、原子力規制庁のHPにはアップされていない。右図



は表の値をプロットしたものである。この図から見る限り、東北・関東の各地に降下した<sup>131</sup>Iは、<sup>137</sup>Csと<sup>134</sup>Csの合計の2.8倍程度になる。最適直線から外れた一つの値は栃木県のデータである。栃木県では、<sup>131</sup>Iは<sup>137</sup>Csと<sup>134</sup>Csの合計の10倍程度になっている。これを除くと、<sup>131</sup>Iは、<sup>137</sup>Csと<sup>134</sup>Csの合計の2.3倍程度になる。

このようなデータは原発事故で放出された全放射能を見積もる基礎資料の一つとなると考えられる。

### 参考

1) 環境放射線データベース HP :

[http://search.kankyo-hoshano.go.jp/top.jsp?pageSID=122745590\\_0](http://search.kankyo-hoshano.go.jp/top.jsp?pageSID=122745590_0)

2) 原子力規制庁 HP : <http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/list/195/list-1.html>